

ぜん ぎょう じ
善巧寺報

4 月号

月刊 ● 善巧寺報

〒344-0032 埼玉県春日部市備後東4丁目1番17号
TEL 048(734)7660 榎本明覚



茅葺屋根の山門がのどかな気持ちにさせてくれる福田禅房 西念寺

しんらん散歩

～ 西念寺 ～

▼ 二〇一八年四月一日 ▲

定例法座

毎 月 十 一 日

◎四月十一日(水)午後二時

〓 四時

於 善巧寺 本堂

「抜苦与楽」

仏教は「抜苦与楽」、苦しみを抜き楽を与える道と言われます。病気を解決するには、その病理原因を明らかにし適切な治療を行わねばなりません。お釈迦さまは生老病死の苦・愛別離苦・怨憎会苦・求不得苦・五蘊盛苦という人間に生まれてきたからには必ず経験しなければならぬ苦しみを解決するため、その原因が煩惱に有り、その煩惱は我執を原因とし、我執は真理道理に明るくないこと＝無明から生じる、とその根本原因を明らかにされたのでした。お釈迦さまの教えを学び伝えた先人の方々は様々なアプローチでその方途を明らかにしようとされたのです。

みほとけ会月例会

◎四月二十六日(木)午後一時

〓 三時

於 豪徳寺 駅改札南隣ビル三階・ロージナホール(一階に牛井「すき家」が入っているビルです。)

会費 五〇〇円

『大乘仏教の歴史』

前回は天親(世親)菩薩の「唯識」について学びましたが、今回は他の論書を紐解いてみましょう。天親菩薩はさまざまな大乘經典の注釈をされました。『十地経論』『金剛般若波羅蜜経論』『妙法蓮華経憂婆提舍(法華論)』等、浄土教においては『無量寿経優婆提舍願生偈』『浄土論』『往生論』があります。『正信偈』に「天親菩薩造論説命無碍光如来」とありますように、親鸞聖人はこの『浄土論』冒頭の「世尊我一心 帰命尽十方無碍光如来 願生安樂国」という天親菩薩の表明、特に「一心」と言べられている所に着目されたのでした。

◆◆春日部だより◆◆

◎十一日の定例法座は、お釈迦さまの御誕生をお祝いする花まつりを行います。例年通り花御堂を設けますので、甘茶をかけてお参り下さい。

◎お釈迦さまのご生涯

紀元前五く六世紀頃、四月八日、インドの北部(現在のネパール)ルンビニの花園で釈迦族の王子として生まれたお釈迦さまは、幼いころから何不自由のない暮らしを送っていました。青年になる頃「生まれてきた者は、年老いて、病気になる、そして必ず死んでしまふ」という、誰一人として逃れることのできない問題に深く思い悩むようになります。二十九歳となったある日、お釈迦さまはこれらの苦しみ

の解決方法を求め、修行をする決意を固めました。王子の地位・財産を捨て、妻や息子からも離れ、出家されたのです。

お城を出たお釈迦様は、二人の仙人を訪ねて、教えを乞います。しかし、納得する答えを得ることはできませんでした。自ら答えを見つけようと苦行林に入り過酷な断食の修行をされます。しかし骨と皮だけの姿になります。しかし骨と皮だけの姿になるまで苦行に励んでもなお、苦しみを解決することはできませんでした。

村娘スジャータから乳粥の供養を受け苦行を止めたお釈迦さまは菩提樹下に座し「極端を廃さなければ、正しい知見は得られない」という事を根本に煩惱を悉く断じ尽くします。経典には煩惱は悪魔の軍勢として登場し

ます。『スッタニパータ』には、「わたしはこのように修行に打ち込み、これ以上はないというほどの苦痛を受けている。だからわたしの心は人の望むようなことを求めない。わたしの心の清らかさを見るがいい。お前の第一の軍勢は欲望であり、第二の軍勢は嫌悪である。第三は飢渴であり、第四は妄執である。お前の第五の軍勢は無氣力に過ごすことであり、第六は恐怖である。第七は疑惑であり、第八の軍勢は偽善と強情である。」

と自らの心にある煩惱の正体を看破し、十二月八日の暁、もはや生老病死の苦しみ迷いを生じないお悟りを開かれブツダと成ったのです。以来、伝道の旅を続けながら教えを説き、御年八十、二月十五日、涅槃に入られたの

でした。



◎お寺の裏を流れる古利根川の桜並木。三月二十七日には満開を迎えました。ごさを敷いてお花見をしている方々もチラホラ。長い冬もようやく終わりましたね。